

《担当者名》○田中真樹 遠藤輝夫 吉田 繁 松尾淳司 江本美穂 山崎智弘 沖野久美子

【概 要】

人間を取り巻く種々の社会的、自然的環境要因による健康影響ならびに職業性疾患の発生要因、予防について学ぶ。また、公衆衛生に関連する統計情報や手法を理解する。本講義では1) 公衆衛生・健康の概念、2) 衛生統計、3) 疫学、4) 感染症、5) 栄養と食品衛生、6) ライフスタイルと健康・保健、7) 精神保健、8) 環境と健康、9) 環境問題と環境汚染、10) 産業保健、11) 衛生行政と社会保障・社会福祉、12) 国際保健等について学修する。

【学修目標】

- 1) 臨床検査に必要な知識を習得するために、公衆衛生の基礎的学識を学び説明できる。
- 2) 公衆衛生の意義と使命を理解し、科学的根拠に基づき予防医学に貢献する。
- 3) 疫学的研究法を理解し、疾病の発生原因を科学的に解析する。
- 4) 公衆衛生に係る諸活動に必要な知識を習得し、実践できる。
- 5) 地域や国際的観点から、公衆衛生の相違を理解し、予防医学に必要な要因を明らかにする。
- 6) 公衆衛生と臨床検査の関連を明らかにする。
- 7) 臨床検査領域における様々な問題を公衆衛生の面から解析する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	公衆衛生の意義	・公衆衛生の意義と使命 ・一次予防～三次予防 ・公衆衛生上の人口問題 キーワード：健康の概念、一次予防～三次予防、ICF、健康管理	田中真樹
2	衛生統計（1）	・人口静態統計 ・人口動態統計 キーワード：国勢調査、人口ピラミッド、年齢区分、死亡	江本美穂
3	衛生統計（2）	・人口動態統計 ・世界の保健状況 ・疾病・障害統計 キーワード：婚姻・離婚、生命表等、国民生活基礎調査、患者調査	江本美穂
4	疫学	・疾病の発生原因 ・疫学的研究方法 キーワード：因果関係、誤差、記述疫学、分析疫学	江本美穂
5	感染症（1）	・感染症の原因となる病原体 ・感染源 ・感染経路 キーワード：病原体、感染源、感染経路、感受性	松尾淳司
6	感染症（2）	・流行を左右する要因 ・感染症法 ・感染症法の分類 ・感染経路別の予防方法 キーワード：新興感染症、院内感染、予防接種、感染症流行予測調査	松尾淳司
7	栄養と食品衛生（1）	・食品衛生に係る法制度 ・食中毒の種類 キーワード：食品衛生法、毒素型食中毒菌、感染型食中毒菌、発生状況	吉田 繁
8	栄養と食品衛生（2）	・代表的な食中毒原因物質、中毒症状、予防法 ・細菌性食中毒 ・ウイルス性食中毒	吉田 繁

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・ 寄生虫性食中毒 ・ 自然毒： ・ 食品添加物 キーワード：ノロウイルス、アニサキス、フグ、アレルギー様食中毒	
9	母子保健 学校保健 成人保健	・ 母子保健の指標 ・ 学校保健の役割 ・ 学校における保健管理 ・ 学校における感染症 ・ 成人保健の動向 ・ 生活習慣病と予防対策 キーワード：出産、新生児・乳児・小児、学校感染症、生活習慣病	沖野久美子
10	高齢者保健 精神保健	・ 老人保健（福祉）の意義と動向 ・ 在宅医療の現状と法制度 ・ 主な精神・神経疾患 ・ 薬物依存・アルコール依存症 キーワード：老人保健、認知症、在宅医療、精神保健対策	沖野久美子
11	環境と健康（1）	・ 室内環境 ・ 上水、下水 ・ 廃棄物の種類 ・ 悪臭、環境たばこ煙と受動喫煙 キーワード：空気環境、上下水、廃棄物、たばこ	山崎智弘
12	環境と健康（2） 環境問題と環境汚染	・ 大気汚染物質 ・ 水質汚濁 ・ 土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、食品公害等 ・ 公害 ・ 地球規模の環境問題 ・ リスク分析・評価 キーワード：地球温暖化、水質汚染、土壌汚染、四大公害病	山崎智弘
13	産業保健	・ 労働環境 ・ 労働条件 ・ 職業病 ・ 労働衛生管理 キーワード：労働災害、健康診断、THP、頸肩腕症候群	遠藤輝夫
14	衛生行政と社会保障・社会福祉	・ 衛生行政 ・ 医療制度 キーワード：保健所、医療計画、社会保険、社会福祉	遠藤輝夫
15	国際保健 環境検査法	・ 国際機関、医療協力 ・ 世界の保健状況 ・ 室内環境検査 ・ 飲料水の水質検査 ・ 下水の水質検査 キーワード：WHO、プライマリ・ヘルスケア、気温、気湿、気流、輻射熱、SS、COD、DO、BOD	田中真樹

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 85% 小テスト 15%

【教科書】

照屋浩司 他著 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学 2024年版」（医歯薬出版株式会社）

【備考】

その都度プリントを配布する。
クリッカー使用し、学生の理解度を把握する。
Google Formを利用して学習課題を提示する。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んでおくこと（80分）
復習は、教科書や配付資料、小テストを活用し学習を深めること（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
（DP6）臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

【実務経験】

田中真樹（歯科医師）、遠藤輝夫（臨床検査技師）、吉田 繁（臨床検査技師）、沖野久美子（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、公衆衛生や予防医学の意義に関する基本的知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している